

東小だより



文責 校長 田崎正明

水無月号

教育目標 ぶるさとを愛し、夢に向かって頑張る子どもの育成。えがおいっぱい げんきいっぱい いのちいっぱい 東っ子

水害から一年、命を守る学校であること

暦の上では、梅雨真っ只中ですが、まとまった雨量もなく、作物の育ちが気になります。振り返れば、昨年の大被害からもう一年が経とうとしています。今まで多くの方々のご支援、ご厚情を賜りました。人のつながりの温かさを感じ、これまで、その御恩に報いる教育をと考えてまいりました。あれから一年です。災害に強い学校であるために、市当局と連携しながら校舎施設の整備に取り組みできました。今後もアンテナを高く持ち、強靭さ、便利さ等の災害に強い学校施設の実現を目指します。そして、もう一つ。子ども達への防災教育、危機管理能力の育成です。私たち教職員の危機意識の高さが、子ども達を高めることにつながります。その自覚をもって、これからも、教育活動を進めてまいります。

さて、学校では、実施する避難訓練について、その計画を何度も練り直し、より実効性のあるものと高めています。避難行動計画は使えてこそ、意味あるものになります。環境の変化や人の変化によって、とるべき行動が変わります。また、災害によっても同じです。その変化に対応できるように、計画を練り直し、訓練を繰り返します。時には、一日に一回は、頭の中で避難行動をイメージし、非常時でのスムーズな対応ができるようにすることも有効であるとも考えます。「地震だ。こうして、ああして、こう逃げる。こう子どもたちを避難誘導する。」という具合にです。ほんの数秒間のイメージです。短い時間ですが、効果は絶大であると考えます。いつ起こるかかわからない災害等に対応するためには、当たり前前のことですが、「身に着ける」ことが重要です。五月には国の災害避難に関するガイドラインが改訂されました。命を守るための自立(律)において、家庭・地域・学校での連携を深めていければと考えます。皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

東っ子民生委員誕生

二十二日(火)に、子ども民生委員委嘱状交付式がありました。この取組は、社会福祉協議会の事業の一環で、地域社会の一員としての自覚、思いやりの心を育てること、そして、お年寄りの方々との関わりを中心し、安心で暮らしやすい地域社会をつくることを目指しています。本校が目指す「笑顔大作戦」の一つとして、校区での活動を展開していきたいと考えます。交付式後には「認知症サポーター養成講座」を受講し、三年生十六人がサポーターとして認定されました。その証のオレンジのリストバンドが輝いていました。



「信条」の唱和



委嘱状の交付



サポーター認定リストバンド



サポートの仕方について劇を通して教えていただきました。



地域の方とともに晩柑狩りの一コマ



夏がやってきたプール学習の一コマ



ゲストティーチャー水道の学習の一コマ



元気に育て栽培活動の一コマ

花の苗を移植しました

全校で取り組んでいる花づくり(人権の花運動)が進んでいます。種まきから一か月。生長した苗を移植しました。地域のボランティアの方々のご支援の下、プランターと学級園に無事移植することができました。まだまだ小さな姿ですが、必死に根を張り、東っ子に元気と思いいやりの心を与えてくれています。大切に、そして、優しく育てることを通して、東っ子の豊かな心を広げていきたいと思えます。また、先日は、子ども達の活動に賛同された保護者の方々も、花づくりへの取組をスタートされました。学級園の隣に、PTA園を手作りされました。廃材を利用したとても素敵な花壇です。子ども達、保護者の皆様、地域の方々となった本校の花づくり活動が始まりました。とても貴重な体験です。大きな夢が広がります。満開の時を楽しみに、この活動を大切に進めていきたいと思えます。



手作りのPTA花壇



移植された学級園



地域の活動支援ボランティアの方々と共に

あとがき

コロナ禍にあって、行動の自粛から、人との対面でのコミュニケーションの機会の減り、それに伴う「つながり」の希薄さが懸念されます。生活していく中で、人とつながることで生まれる「やさしさ」や「あたたかさ」は安心感を高めてくれるものです。先日、昔の手帳を見直してみると、ある詩を書き留めていることに気づきました。以前何かで目にし書き留めておいたものです。読み返し、「そうだよなあ」と、道徳的価値に触れた気がしました。こんな時だからこそ、自分の支えとして、心に刻んでいきたいものです。題は「今度は私が」というものです。

「私の乗ったバスの中 バス停で止まるたび どんどん人が乗ってくる。次のバス停で おばあさんが乗ってきた。すわっていた若いお兄さんが、「どうぞ」と席をゆずった。バスの中に優しさが広がった。バスの中に勇気が広がった。次は、ようち園の子どもが乗ってきた。すわっていた小学生が「どうぞ」と席をゆずった。バスの中に優しさが広がった。バスの中に勇気が広がった。今度は私が席をゆずろう。」

くまもと家庭教育十か条 第九条 (地域全体での子育て) この子もあの子も 地域で子育て みんなの宝

東っ子へ～今月伝えたこと～

①

- ①やさしい ②まじめ
③前向き ④気がきく
⑤ムードメーカー ⑥リーダー
⑦思いやりがある
⑧がまん強い ⑨器用
⑩アイデアいっぱい
⑪親切 ⑫最後までやりとげる

よいところ
12こ

- ①おこりんぼう ②じこちゆう
③でしゃばり
④すぐに決められない
⑤行動がおそい ⑥短気
⑦そそっかしい ⑧不器用
⑨せっかち ⑩おせっかい
⑪がんこ ⑫あきつぽい

よくないところ
12こ

ちょうど はんぶんずつ

②

「いいところ」も はんぶん。「わるいところ」も はんぶん。



だったら ともだちに

- ①ともだちの「よくないところ」をいやがらないでみとめてみよう。
- ②ともだちの「よくないところ」がでてきたらゆるしてみよう。
- ③ともだちの「よいところ」をみつけるどりよくをしてみよう。
- ④みつけられないのは「どりよくが たりない」とかんがえてみよう。

③

「いいところ」も はんぶん。「わるいところ」も はんぶん。



だったら じぶんは

- ①「よくないところ」をださないようにがんばってみよう。
- ②「よくないところ」がでてきたら すなおにあやまってみよう。
- ③ともだちに じぶんの「よいところ」も「よくないところ」もおはなししてわかってもらおう。

④

「いいところ」も はんぶん。「わるいところ」も はんぶん。



「ありがとう」で

じぶんの「いいところ」は ともだちに「ありがとう」をいってもらうためがある。
※ともだちのために 「いいところ」をつかってみよう。

じぶんの「よくないところ」は ともだちに「ありがとう」をいうためがある。
※ともだちの 「いいところ」をみつけてみよう。

⑤

「いいところ」も はんぶん。「わるいところ」も はんぶん。

こころのなかでは、「～ほしい」

「わかってほしい」・「ほめてほしい」・「すきになってほしい」
「しんじてほしい」・「ゆるしてほしい」・「まっけてほしい」



だったら、「～なろう」

「わかろう」「ほめよう」「すきになろう」
「しんじよう」「ゆるそう」「まっけていよう」



⑥

「いいところ」も はんぶん。「わるいところ」も はんぶん。



ともだちに こんなことばで

「わ～！すごいね～！」「うれしい～！」「ありがとう～！」

「もっと きかせて」「そのとき どんなきもちだった」

「いまの きもちを きかせて」「どうして できたの」

「どうして そんないいことが おこったの」

⑦

「思いやり」をつくるもと



明るく賑やかで
きれいな教室にいて
東に 病気の友達あれば行つて
優しく 接してやり
西に 困っている友達あれば
行つて 一緒に 手伝い
南に 辛そうな友達あれば
行つて 心配しなくていい
私がついていると励まし
北に 喧嘩やいじめがあれば
つまらないからやめろと言ひ



⑧

じんけん たいせつ
「人権を大切にすること」

ともだちと「なかよし」
になること

- 一、友だちをよぶときは「さんくん」をつけてよびます。
- 一、相手の気持ちを思いやった言い方をします。
- 一、友だちとたすけあひます。

